

∼郷村の城郭~

【城郭データ】

: 下大野城(しもおおのじょう) 城郭銘

時 代 : 戦国時代(推定)

主な城主:不明

主な遺構:竪堀、切岸、堀切(横堀) 登山条件:下大野公会堂から山道あり

所在地 : 菊川町大字下大野

豊かな大地に支えられた 村落率いたリーダーには 集団を守る知恵と城郭も 必要とされた。

【下大野城の概要と特徴】

菊川町の南東側、菊川盆地が木屋川に向かって閉じる端 にある丘陵に山城が造られている。城は標高 40m 程の小さ な丘の上にある。城の規模は小さく砦に近い。ただし、そ の形からは館とも見ることができる。

規模が小さいながらも機能が詰まった下大野城は、木屋 川周辺に広がる豊かな耕作地を持つ集落(郷村)が、自分 たちの集団を守るために造った城とも考えられる。



【下大野村地下図(山口県文書館所蔵)】

元文四年(1739年)の「大野村由来」 に下大野の矢井に城山あり」との記載 があるほか、享保十四年(1729年)の 「下大野村地下図」にも「城山」として 記されています。



下大野城のあるところ~菊川盆地東端の城

大野地区は、中世は大野庄と呼ばれた地域であり、 木屋川沿いの広い平野を基盤に豊かな農業生産を有 した集落が存在したと思われる。江戸時代に清末藩 領となり、現在の下大野と上大野に分かれた。



勧請した大野八幡宮と、春日神社とを合 り川狩が行われていた。光林寺は九代藩 祀した現在の大野神社。



C. 詳細は不明であるが、下大野城の南麓 古来からの人々の営みを物語る。



A. 山城の国(現京都府) 岩清水八幡宮を B. 江戸時代、下大野村では清末藩主によ 主毛利元純が立ち寄ったとされる。



D.下大野城は矢柄山の東麓にある。元々、 には石棺(下大野石棺)があったとされ、 矢柄山に城(城山)があったとされ、下 大野城は支城の可能性もある。

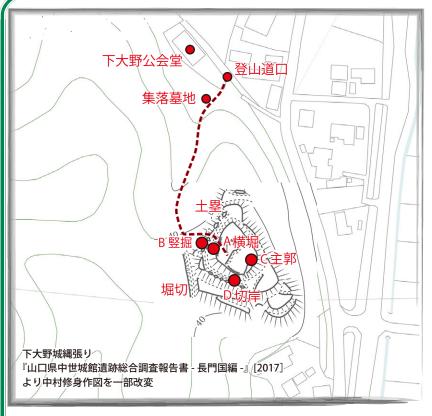
【アクセス】

先ずはアブニールへ。 県道 265 号線で左折、 大野神社前から集落内 公会堂に駐車。 徒歩で集落墓地を過ぎ

更に登る5分程の道程。







【下大野城の縄張り】

下大野城は独立した丘陵から東側に張り 出した台地上に造られている。台地から東 側は平野に向けて急斜面となる。階段状に 曲輪が連続する南東側を正面し、丘陵地形 が伸びる西側が搦手となる。搦手方面が弱 点であるため、横堀と竪掘、堀切を連続さ せ厳重に防御する。特に横堀から連続する 竪掘は他ではあまり例を見ない造りで見ど ころの一つ。主郭の周りは切岸と自然地形 の急斜面、加えて横堀が巡る形で、主郭に 対する守りは強固である。

敷地総面積が4,200 ㎡程と小さいなが ら厳重な作りは、戦国時代から桃山時代へ 時代が移る中で発展した居住できる城郭の 様相を見せる。

下大野城を攻める



A:主郭の北西側をL字状に巡る横堀。周 溝のような造りは館の様相に通じる



設置される。畝状竪掘とも見れる。



B: 横堀から斜面下に延びる竪掘が無数に C: 南側の曲輪から仰ぎ見た主郭。比高が D: 主郭の縁から下はかなりの急斜面を持 あり、見た目も圧倒させる効果があった。 つ切岸。登坂が困難で堅い守り。





ふるさと再発見部会さまにより菊川町域の 山城が調査、整備されています。



ガイドブックやマップにはその他の山城も 掲載されています。

もっと下大野城を知りたい・・・

【参考となる資料】

- ·「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 長門国編 -」(2017) 山口県教育委員会
- ・「きくがわもっと知りたいガイドブック」(2012) ふるさとづくり推進協議会ふるさと再発見事業作業部会
- 「きくがわもっと知りたいMAP」(2018) 菊川地区まちづくり協議会「地域活性部会」
- ・「菊川町史」(1970) 菊川町教育委員会

【その他のご参考】

ふるさと再発見作業部会さま

2008年設立。古文書などから菊川の山城を調査し発見。その成果を冊子やガイ ドツアーなどで情報発信しています。ご連絡は、菊川総合支所にお尋ねください。